

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書			2025/11/4	
団体名	一般社団法人 愛媛デジタル女子プロジェクト	活動タイトル	ひとり親世帯をデジタルスキルアップを通してエンパワメントする事業第二期	
望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）			■活動風景	
●地域の望ましい社会状況(ビジョン)	当団体の実現したいビジョンは、「デジタルの力を活用して誰もが自分らしくいきいき働き生きる社会」である。具体的には、デジタルを活用することで自分らしい働き方や生き方を発見・選択し、夢や目標を持ち、様々な人と出会い多様な知識や考え、価値観に触れることで個々にお互いを認め合う優しい社会の実現である。そのためには誰もがデジタルスキルアップを望めば叶い継続したリスクリングが可能な社会環境が必要であり、必要な情報が得られ、生き方や働き方について気軽に安心して相談できる環境が整備されている必要があると考える。		活動風景① 	
●団体の社会的役割（ミッション）	当団体のミッションは、「地方でも女性達が気軽にデジタルスキルアップや働き方に関する様々な情報に触れられる機会を創出し、学習意欲をサポートする」ことである。具体的にはイベントの企画・運営、継続したリスクリング環境を提供するデジタルスキルアップコミュニティへの取り組みを推進する。ひとり親においては就労について一歩踏み出すためにメンタルケアも必要なことから受講者の自己肯定感を高め、生き生きと自信をもち、望む就労形態選択を行うことができるような独自のエンパワメントプログラムが必要だと考える。			
●団体の活動基盤	●望ましい人的資源：女性達に寄り添いサポートが可能なスタッフが活躍しており、専門的なデジタルスキルを持ち教育を行えるプロボノ人材の協力を確保していること。 ●望ましい物的資源：活動ができる場所の継続的な支援を企業からもらえていること、経済的貧困な状況にある方がデジタル学習に使用するための貸し出し可能なパソコンがあること。 ●望ましい活動資金：不安定なその他の委託事業に頼らず資金を確保していくために自主事業「デジトレ」「オンライン事務講座」をブランド力のあるものにしっかり育てられている。また、活動に賛同くださる企業や個人からの協賛設計をしっかりと立てていること。助成金も活動基盤を強固にするために活用できるよう計画し、団体の活動がステップアップしていくよう資金を有用に活用すること。 ●望ましい情報：クラウドの活用により組織における情報共有がしっかりなされること。イベントの企画運営に関してはスムーズに実施できるようボランティアの力も借りられるよう流れに関して情報のマニュアル化ができていること。			
■活動報告			■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)	
●ひとり親のためのデジタルスキルアップ講座「ひとり親デジタルWORKUPプログラム」第2期の実施:愛媛県在住の身近に身寄りのないひとり親の女性を対象に、e-Learningを活用したデジタルスキルアップ講座を実施。生成AIやDXツール（kintone）などの実践研修などのスキルアップや資格取得を目標とすることで学習意欲の維持を図った。kintoneを活用したオンラインコミュニティを運営し、安心して相談や情報共有ができる環境を整備。1期生が伴走サポーターとして関わり、当事者同士のつながりを深めながらひとり親の女性達のエンパワメントを図った。 ●ロールモデル座談会の実施:キャリア形成意識を高めるため、多様な働き方のロールモデルの座談会を実施した。視野を広げイメージが湧くことで目標が定まり、希望する働き方へのキャリア形成をめざした。 ●ひとり親世帯の子どもを対象とした親子デジタル体験講座の開催：愛媛大学との共催によるプログラミング体験や愛媛銀行とのおかねの講座を実施。親子で学びながら未来への関心を高め、人生への視野や世界を広げた。教育格差の解消とキャリア意識の醸成を目指した。			●ひとり親のためのデジタルスキルアップ講座 ①開催 11回実施（当初計画10回を11回に変更） ②目標アウトカム「就労意欲・自己肯定感・デジタルスキルの増加・新しい働き方へのチャレンジ」：参加者の70%以上が2段階以上UP。 ●ひとり親世帯の親子のためのデジタルスキル体験講座 ①開催 2回実施 ②目標アウトカム「デジタルスキルを知って世界が広がる」：参加者の73%以上が2段階以上UP。 ●ロールモデル座談会の実施 ①開催 3回実施（当初計画4回を3回に変更） ②目標アウトカム「キャリア形成意識の増加。多様な働き方のロールモデルを知ることで視野が広がる。：参加者の80%以上 ●活動基盤の強化 ①スタッフ研修2回実施 ②ボランティアスタッフ：10名、スキル3段階修得者:8名	
■事業を通じて得られたノウハウ			■望ましい社会状況を達成するための課題	
●kintoneを活用したチーム運営やオンラインコミュニティの運用を通じ、デジタルツールを活かした効果的な伴走支援の方法を学ぶことができた。特に、参加者同士の交流を促す投稿設計や情報共有ルールの明確化など、運営面でのノウハウを得た。 ●各チームに1期卒業生サポーターを配置することで、当事者同士の共感が生まれ、学習意欲や継続率が向上するなど、コミュニティ内でのピアサポートの有効性を確認できた。 ●座談会やアンケートを通じて、ひとり親の方々が安心して相談できる場を設けることの重要性を再認識した。地域には当事者同士が支え合う仕組みがほとんどないことが分かり、今後は参加者の声を行政と共有し、支援体制の充実や予算の拡充など、より実効性のある支援へとつなげていきたい。 ●デジタル体験講座や金融リテラシー講座の開催を通じ、教育格差の解消には親子での学びを一体的に支援することが重要であると実感した。また、地域のボランティアや大学生の協力により、多世代で支え合う仕組みづくりの可能性が広がった。			ひとり親の方々が安心して学び・相談できる場の重要性を再認識する一方で、学んだスキルを継続的に活用し、就労や収入の安定につなげるための長期的な伴走支援体制の整備が課題であることが明らかになった。 また、単にスキルを習得するだけでなく、自身のキャリアや生き方を「自分ごと」として捉え、主体的に将来を描く機会を増やすことの重要性を実感した。また、保護者の意識変化が家庭の雰囲気をも明るくし、子どもが将来に希望を持てる環境づくりに直結することが分かった。こうした効果を持続させるためには、「親の学び」と「子の学び」を一体的に支援し、教育格差や情報格差をなくす仕組みを地域全体で支えることが必要である。今後は、参加者の声を行政や支援団体と共有し、より実情に沿った支援体制や予算の拡充を働きかけながら、誰もが安心してデジタルスキルを学び、自己理解を深め、自らの可能性を発揮できる社会の実現をめざします。	
■活動成果のアピールポイント（自由記入）			この1年間の活動を通じて	
			13名のひとり親の女性の伴走支援を中心に、デジタルスキルの向上とキャリア形成、家庭に前向きな変化を生み出すこと	
■受益者の具体的な変化（自由記入）			を達成しました。	
			●学びを通じて「できない」から「できるかもしれない」という意識に変化し、将来への希望や行動意欲が高まった。 ●子供と一緒にリビングで勉強できるようになったのが嬉しいというお声が見られた。	